

加賀電子株式会社
第52期（2019年3月期）
第2四半期決算説明会資料

2019年11月28日
加賀電子株式会社

目次

- **2020年3月期第2四半期決算概要**
 - 2020年3月期 第2四半期決算サマリー P- 3
 - 業績ハイライト/事業部門別概況 P- 4～15
 - バランスシート/キャッシュフロー/経営指標 P-16～19
 - 2020年3月期 通期業績予想 P-20～21

- **<参考> 中計新セグメント開示/為替レート** P-22～27

- **加賀電子グループのEMS事業について**
 - 加賀電子のEMSの強み P-28～31
 - 主要生産拠点 P-32～34
 - 主な生産品目 P-35～38
 - 成長シナリオ P-39
 - 重要テーマと具体的なアクション P-40～41
 - 各アクションの概要 P-42～46

- **加賀電子グループの中期経営計画と中長期ビジョン** P-47

2020年3月期 第2四半期決算概要

加賀電子株式会社
常務取締役 川村 英治

管理本部長の川村でございます。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

2020年3月期第2四半期 サマリー

2020年3月期 第2四半期実績

- 売上高は、富士通エレクトロニクスのグループ会社化が寄与し、倍増。
- 営業利益～当期純利益まで全て増益。営業利益、経常利益は最高益更新。
- 企業買収効果および堅調なEMSビジネスが下支え、6ヶ月累計、直近3ヶ月とも「増収増益」の着地。通期予想に対して順調に折り返す。

電子部品事業の 概況

- EMSビジネスは、医療機器、車載関連向けを中心に増収。
- 部品販売ビジネスは、LED照明などの民生向けが順調。富士通エレクトロニクスが加わり、携帯電話、車載向けなど新たな収益がグループ業績に寄与。

情報機器事業の 概況

- パソコン販売は、個人および学校・教育機関向けが牽引し、増収。
- LED設置ビジネスは、大口顧客の置換需要が一服。住宅向け家電販売は、客先での納期調整の影響受け、減収。

通期見通し

- 先行き不透明な経営環境を慎重に見極めつつ、2Qの順調な進捗を踏まえても、通期業績見通しは期初予想から見直さず変更なし。
- 業績予想の前提となる為替レートも変更せず。

2020年3月期の第2四半期の決算概要について、私からご説明申し上げます。お手元の資料3ページ、サマリーになっております。この第2四半期の実績ですが売上高は富士通エレクトロニクスのグループ会社化が寄与し、倍増となりました。営業利益から当期純利益まではすべて増益となり、営業利益、経常利益は最高益更新となっております。企業買収効果及び堅調なEMSビジネスが下支えして、6カ月累計並びに直近3カ月とも増収増益の着地となり、通期予想に対しても順調に折り返しております。

電子部品事業の概況でございますが、EMSビジネスにつきましては医療機器、車載関連向けを中心に増収となりました。部品販売ビジネスはLED照明などの民生向けが順調に推移し、また富士通エレクトロニクスが加わったことで携帯電話、車載向けなど、新たな収益がグループの業績に寄与しております。

次に、情報機器事業の概況ですが、パソコン販売は個人及び学校、教育機関向けが牽引し、増収となりましたが、LED設置ビジネスは大口顧客の置き換え需要が一服、住宅向け家電販売は客先での納期調整の影響を受け、減収となりました。

通期の見通しにつきましては、先行き不透明な経営環境を慎重に見極めつつ、第2四半期の順調な進捗を踏まえても、期初予想から見直しをせずに変更しておりません。また業績予想の前提となる為替レートも変更せず、110円としております。

2020年3月期第2四半期 業績ハイライト（6ヶ月累計）

（単位：百万円）

	2019/3期	2020/3期	前年同期比	通期予想	進捗率
	Q2実績	Q2実績			
売上高	115,383	230,630	99.9%	430,000	53.6%
売上総利益	16,023	23,771	48.4%	46,500	51.1%
同利益率（%）	13.9%	10.3%	▲3.6pt		
販売費及び一般管理費	12,251	18,531	51.3%	39,500	46.9%
営業利益	3,772	5,239	38.9%	7,000	74.9%
経常利益	4,049	5,546	37.0%	7,000	79.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,750	3,502	27.4%	5,000	70.1%
EPS（1株当たり四半期純利益）	100.25	127.62	27.37	182.17	70.1%
為替レート 米ドル	110.26	108.63	1.63	110.00	

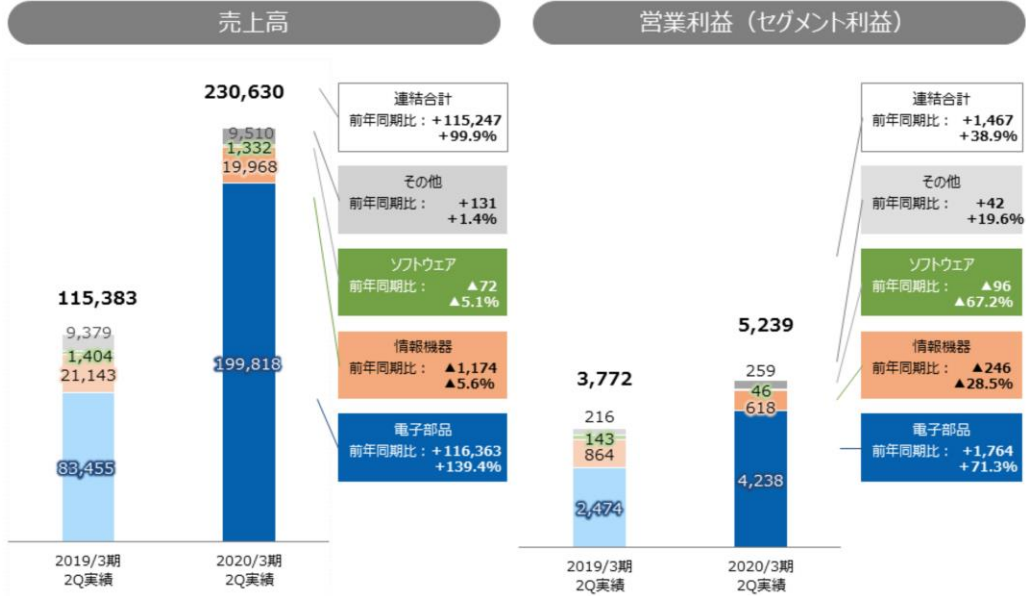
 加賀電子株式会社

次に、業績ハイライトになります。第2四半期累計期間の実績についてご説明申し上げます。売上高2,306億3,000万円となりまして、前年同期比99.9%増と倍増いたしました。通期予想は4,300億としておりますので、その進捗率は53.6%となります。売上総利益は237億7,100万となり、利益率は10.3%、前年同期比48.4%増となっております。通期予想は465億円としておりますので、進捗率としては51.1%となります。総利益率につきましては、前年同期が13.9%でしたので、3.6ポイントほど低下しておりますが、こちらは当社に比べ利益率の低い富士通エレクトロニクスをグループ会社化したことによるものです。販売費及び一般管理費は185億3,100万となり、前年比51.3%増。通期予想は395億としておりますので、進捗率は46.9%となっております。営業利益は52億3,900万となり、前年比38.9%増。通期予想は70億で据え置いておりますので、進捗率74.9%。経常利益は55億4600万となり、37%増。通期予想は70億で据え置いておりますので、進捗率は79.2%となります。最後に、親会社株主に帰属する四半期純利益は、35億200万となり、前年比27.4%増。通期予想は50億で据え置いておりますので、進捗率は70.1%となります。

以上の結果EPSは127円62銭となり、前期に比べると27.3%増となっております。為替レートは米ドルの実績値で、108円63銭となり、予定よりは1円63銭、円高に振れております。

2020年3月期第2四半期業績 事業部門別業績（6ヶ月累計）

（単位：百万円）



加賀電子株式会社

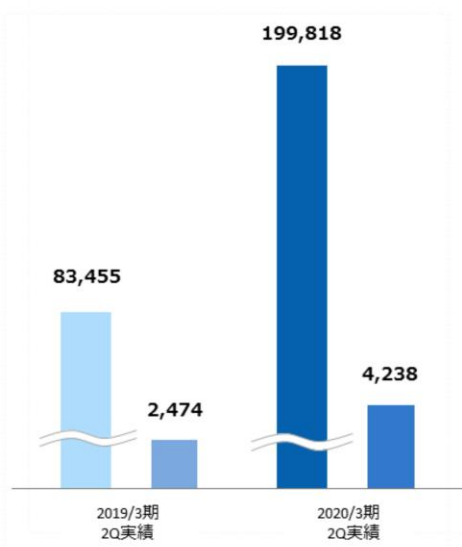
注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

次に5ページ、第2四半期事業部門別の実績でございます。6カ月の累計期間になりますが、全体の売上高2,306億3,000万円の中で、電子部品事業が1,991億1,800万となり、全体の86.6%を占めております。続いて情報機器事業、199億6,800万円となり、こちらは8.6%。それからソフトウェア事業が13億3,200万円となり、こちらは1%弱になります。その他事業が95億1,000万円となり、4.1%のシェアを占めております。営業利益は52億3,900万円のうち、電子部品事業が42億3,800万円となり、全体の80.9%。情報機器事業が6億1,800万円となり、11.8%。ソフトウェア事業が4,600万円と0.9%。その他事業が2億5,900万で4.9%というシェア割となっております。

2020年3月期第2四半期業績：電子部品事業（6ヶ月累計）

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益



前年同期比

- 売上高 ▶ +116,363百万円 139.4%増
- セグメント利益 ▶ +1,764百万円 71.3%増

EMSビジネスは、医療機器、車載関連向けを中心に順調

部品販売ビジネスは、LED照明など民生向けに加え、富士通エレクトロニクスの携帯電話、車載向け収益が新たに寄与



次のページは電子部品事業の6カ月累計の実績値になります。わかりやすく売上高と利益を比較しており、売上高は前年同期比1,163億6,300万円、139.4%増となっております。利益は、17億6,400万円、71.3%増となっております。こちらの業況といたしましては、EMSビジネスが先ほどサマリーで申し上げたとおり、医療機器、車載関連向けを中心に順調に推移したこと、それから部品販売ビジネスにつきましてはLED照明など民生向けに加えて、富士エレクトロニクスにおいて、携帯電話、車載向けが、収益に新たに寄与したことが主な要因となります。

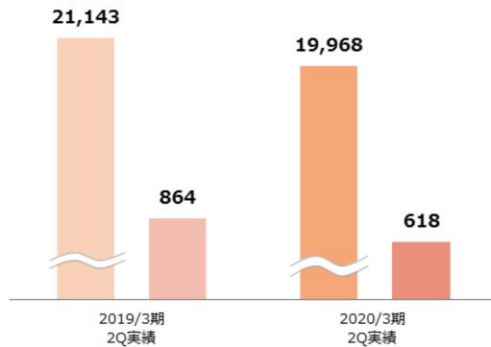
2020年3月期第2四半期業績：情報機器事業（6ヶ月累計）

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

前年同期比

- 売上高 ▶ ▲1,174百万円 5.6%減
- セグメント利益 ▶ ▲246百万円 28.5%減



個人、学校・教育機関向けPC・PC周辺機器
販売が好調

商業施設向けLED設置ビジネスは置き換え
需要が一服、住宅向け家電販売ビジネスは減収

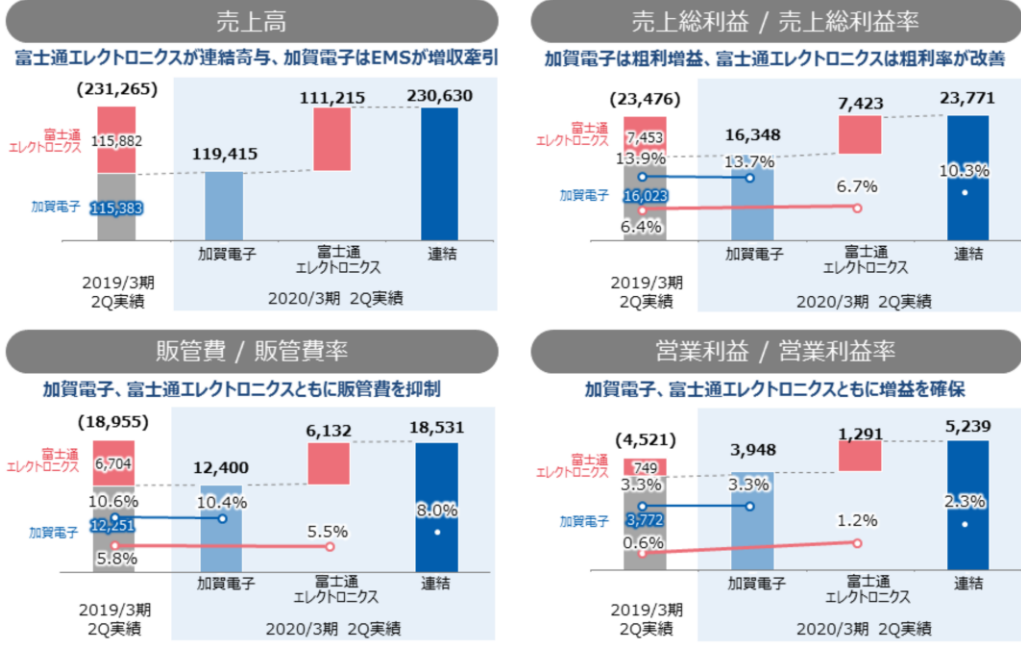


 加賀電子株式会社

次にページは情報機器事業の6カ月累計の実績値になります。売上高は199億6,800万円、営業利益6億1,800万円ですが、売上高は11億7,400万の減少となり、前期比5.6%減。利益は2億4,600万円の減益で、前期比28.5%の減少となっております。こちらは個人、学校、教育機関向けのPC並びに周辺機器の販売が好調でしたが、商業施設向けLED設置ビジネスの置き換え需要が一服したことで、住宅向け家電販売ビジネスが減収であったことが、減収減益の主な要因となっております。

2020年3月期第2四半期 富士通エレクトロニクス グループ会社化の影響

※単位：百万円、()内は単純合算、富士通エレクトロニクスの前期実績は非開示のため参考値

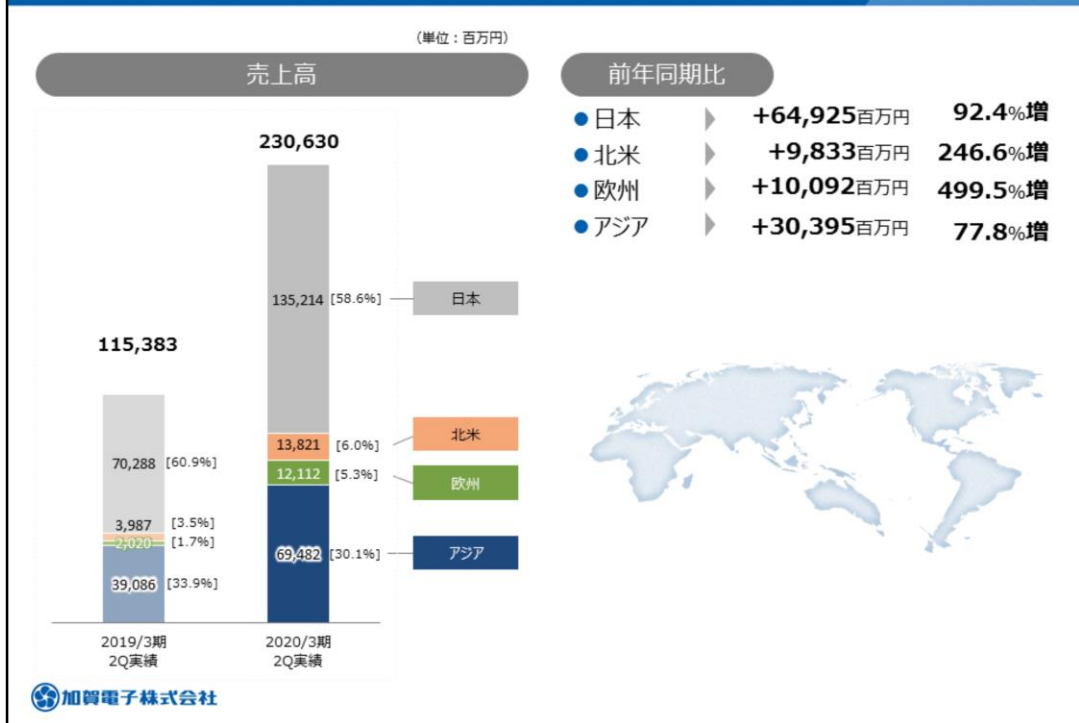


加賀電子株式会社

(注) 売上総利益および営業利益については、2社間での連結調整前の数値を記載しております。
なお、連結調整額は売上総利益は5百万円、営業利益は1百万円です。

次のページは、今回の第2四半期の実績値について富士通エレクトロニクスの業績が今期から、連結されたことによって、前年同期で比較すると大きくずれてしまいますので、富士通エレクトロニクスの数字を抜き出し、従来の加賀電子グループの実績値と、富士通エレクトロニクスの実績値を、それぞれ分解したグラフになります。売上高は全体で2,306億3,000万円でしたが、このうち富士エレクトロニクス分が、1,112億1,500万円、グラフの赤い部分です。差し引きしたものが加賀電子の売上高、1,194億1,500万円となっております。従来の加賀電子グループは前年同期に比べますと、40億3,200万円の増収でした。その右のグラフは、売上総利益になります。こちらは全体で237億7,100万円でしたが、富士通エレクトロニクス分は74億2,300万円でした。加賀電子は163億4,800万円となり、こちらは前期が160億2,300万円でしたので、3億2,500万円の増益となります。利益率は全体で10.3%となりましたが、富士通エレクトロニクスが6.7%、加賀電子が13.7%という分解になります。加賀電子は前期が13.9%でしたので、ほぼ横ばいというところですよ。続いて販管費は全体で185億3,100万円でした。富士通エレクトロニクス分が、61億3,200万円となり、加賀電子分は124億円となっております。加賀電子は前年同期が122億5,100万円でしたので、1億4,900万の増加となっております。最後に、営業利益です。全体で52億3,900万円となり、12億9,100万円が富士通エレクトロニクス分、加賀電子分は39億4,800万円となります。加賀電子の前年同期は37億7,200万円でしたので、加賀電子分は1億7,600万円の増加となります。なお、売上総利益率ですが、今年の1月から3月、前年の第4四半期から、富士通エレクトロニクスがグループ化されましたが、第4四半期の実績値は6.0%、次の第1四半期が6.3%、当第2四半期が7.0%となり、第2四半期累計では、6.7%という推移となっております。

2020年3月期第2四半期業績：地域別売上高（6ヶ月累計）



次のページは、第2四半期累計期間の地域別売上高の分解になります。2,306億のうち、日本での売上高が1,352億1,400万円となり全体の58.6%のシェア、それから北米が138億2,100万円となり6.0%、欧州が121億1,200万円と5.3%、アジアが694億8,200万円となり、30.1%という分解になっております。前年同期比につきましては、この右側に記載のとおりでございます。

2020年3月期第2四半期 業績ハイライト（直近3ヶ月）

(単位：百万円)

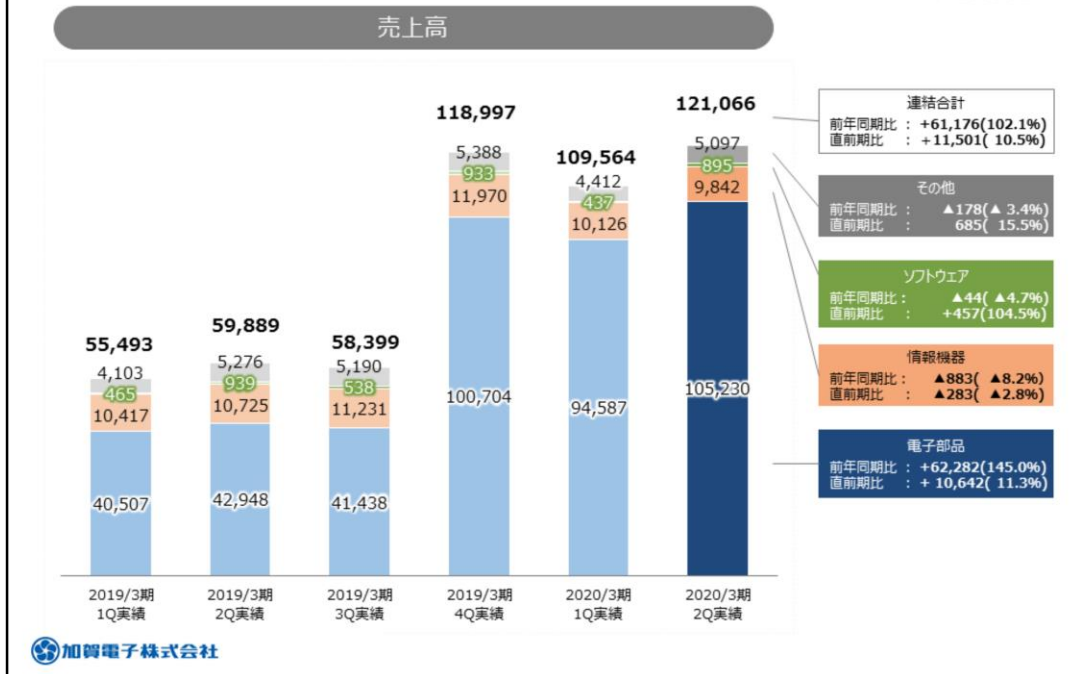
	2019/3期	2020/3期	2020/3期		
	Q2実績	Q1実績	Q2実績	前年同期比	直前期比
売上高	59,889	109,564	121,066	102.1%	10.5%
売上総利益	8,381	11,062	12,708	51.6%	14.9%
同利益率 (%)	14.0%	10.1%	10.5%	▲3.5pt	0.4pt
販売費及び一般管理費	6,098	9,212	9,319	52.8%	1.2%
営業利益	2,282	1,850	3,389	48.5%	83.1%
経常利益	2,369	2,045	3,500	47.7%	71.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,601	1,350	2,152	34.4%	59.4%
EPS (1株当たり四半期純利益)	58.38	49.20	78.42	34.3%	59.4%
為替レート 米ドル	111.46	109.90	107.35	▲ 4.11	▲ 2.55

 加賀電子株式会社

次は第2四半期の業績ハイライトになります。こちらは3カ月の分解になります。売上高が、1,210億6,600万円となり、直前の第1四半期に比べると10.5%の増収となっております。売上総利益は127億800万円となりまして、14.9%増。次に販管費は93億1,900万円で、1.2%増、営業利益は33億8900万円で、83.1%増、経常利益は35億円となり、71.1%増、親会社株主に帰属する四半期純利益21億5200万円となり、59.4%増という実績となりました。第2四半期、非常に堅調だったということがうかがえると思います。また、為替レートにつきましては、第1四半期が109円90銭だったものが、107円35銭で、米ドルについては、四半期ごとでは円高傾向で推移しております。

2020年3月期第2四半期 セグメント別業績①（売上高）

（単位：百万円）

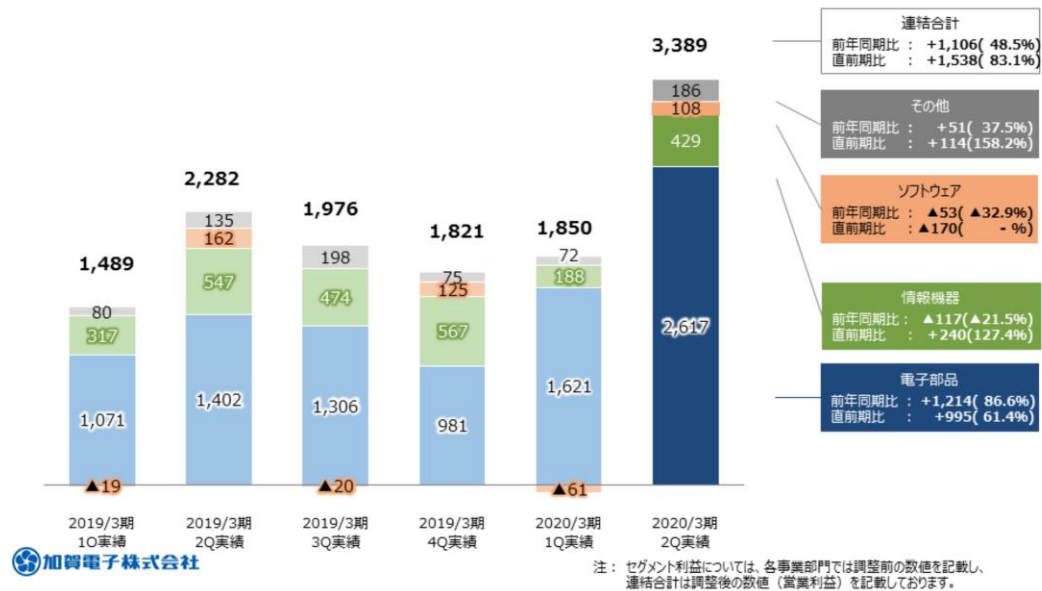


次のページは第2四半期のセグメント別の業績になります。売上高ですが、こちら右側の3本のグラフご覧いただくと、一番右側の一番濃い青いグラフが、当第2四半期の実績値です。それからその左隣が、第1四半期の3カ月実績値。それからまた、右から3番目のグラフが、この1月から3月期、前年の第4四半期になります。3つの四半期を並べてみますと、売上高は第1四半期がやや落ち込みましたが、第2四半期は前第4四半期より上回っております。また、電子部品事業がほとんどのシェアを占めており、そのシェア割合はほぼ変わらずという内容となっております。

2020年3月期第2四半期 セグメント別業績② (セグメント利益・営業利益)

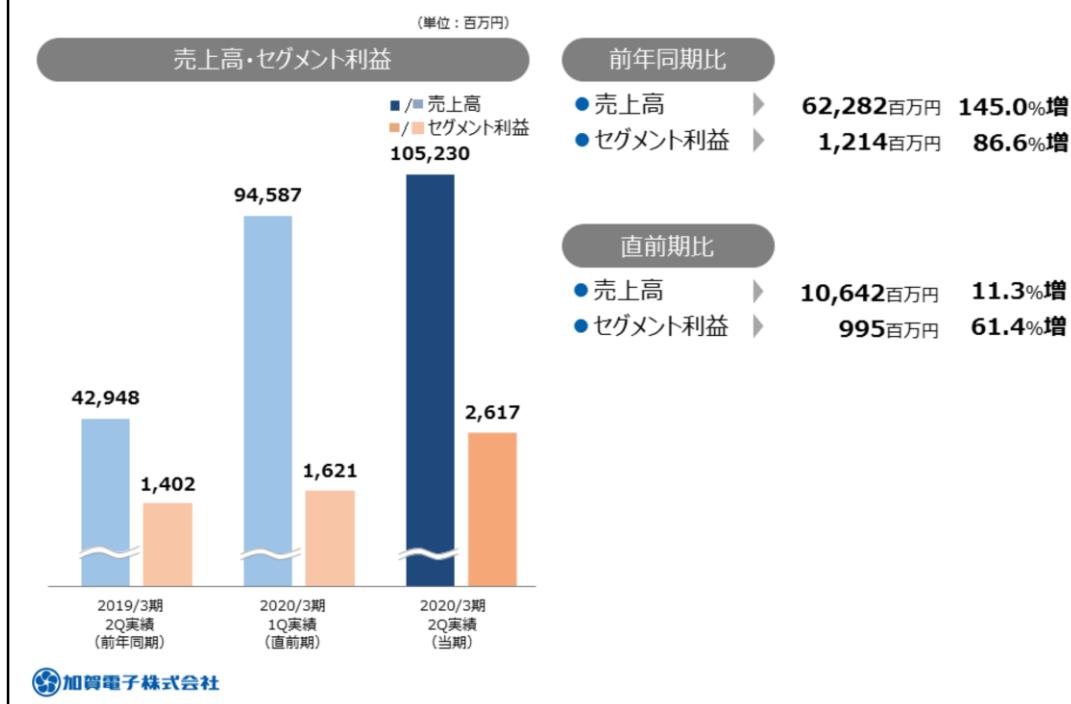
(単位：百万円)

セグメント利益・営業利益



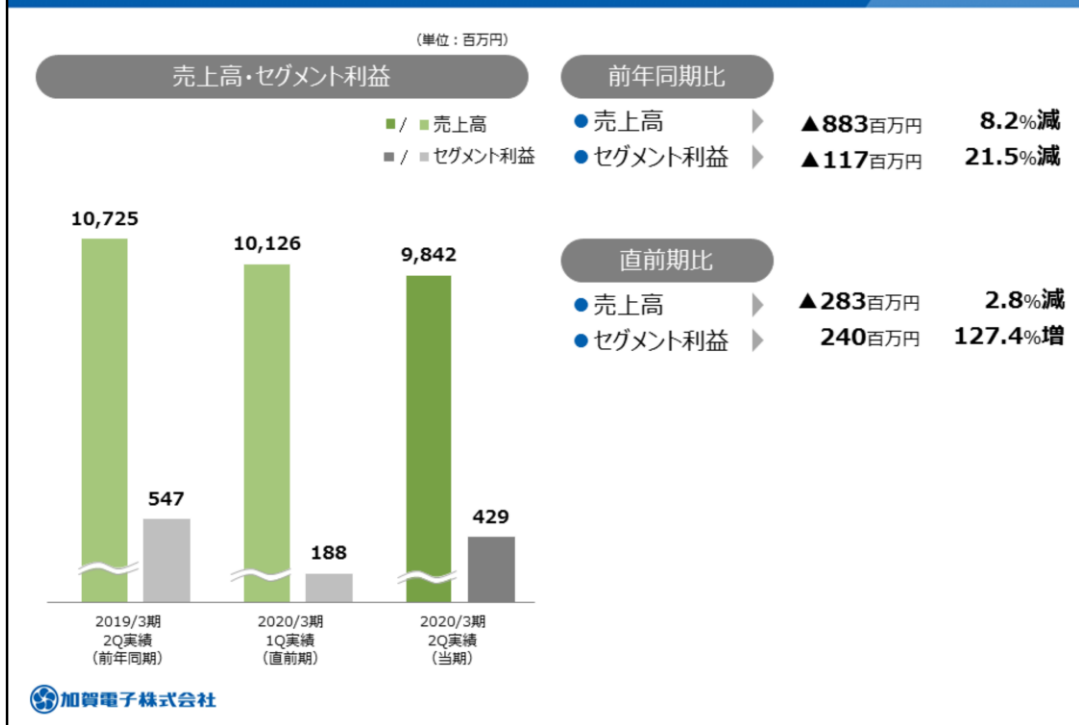
次のページ、は営業利益になりまして、一番右側から当第2四半期、直前期の第1四半期、それから前期第4四半期という内容になっております。こちらご覧いただくと、この第2四半期が非常に増益だったということがご理解いただけると思います。

2020年3月期第2四半期業績：電子部品事業（直近3ヶ月）



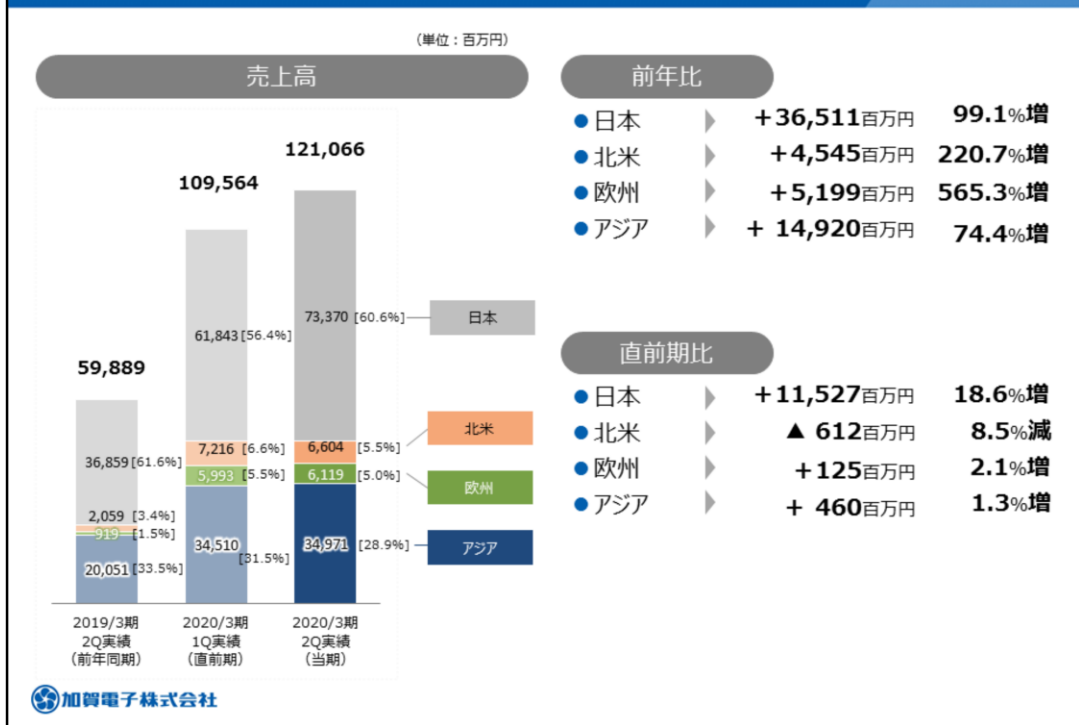
次のページは直近3カ月の電子部品事業の売上高と利益になります。売上高は、1,052億3,000万円となり、直前期に比べ106億4,200万円、11.3%増となっております。セグメント利益は26億1,700万円となり、9億9,500万円、61.4%増となっております。

2020年3月期第2四半期業績：情報機器事業（直近3ヶ月）



次のページは情報機器事業の直近3カ月の売上高、利益の推移となります。第2四半期は98億4,200万円の売上高で、営業利益が4億2,900万円となりました。残念ながら売上高は、直前期に比べると2億8,300万円の減収となり、2.8%減。利益は2億4,000万円、こちらは増益となり、127.4%増となりました。

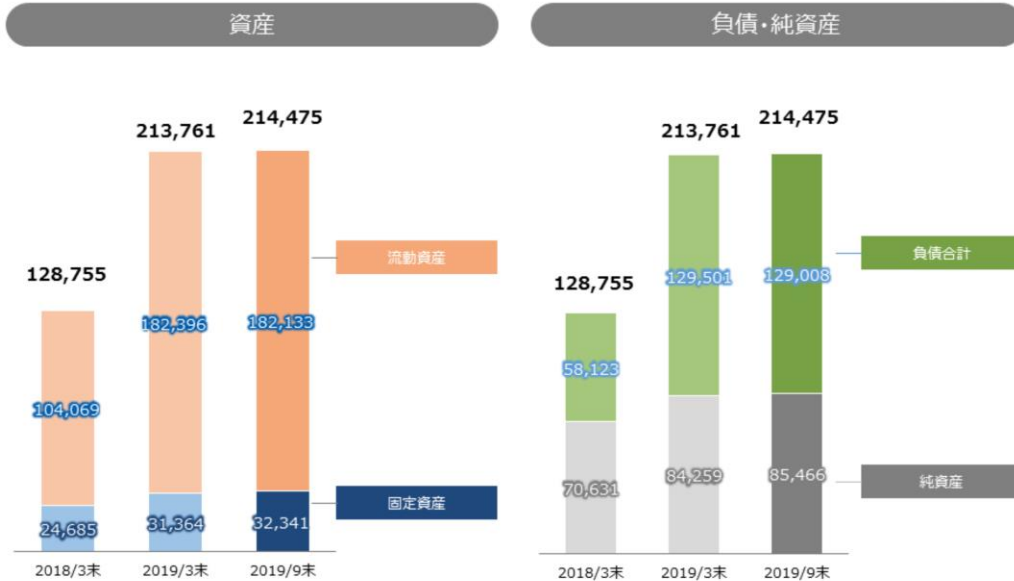
2020年3月期第2四半期業績：地域別売上高（直近3ヶ月）



続いて、地域別の直近3カ月の実績値になります。この第2四半期の売上高が1,210億6,600万円のうち、日本が60.6%、直前期比で比較すると115億2,700万円の増加、18.6%増となります。北米が66億400万となり、6億1,200万円の減収で、8.5%減。欧州が61億1,900万円となり、1億2,500万の増加、2.1%増です。アジアは349億7,100万円となり、4億6,000万の増加、1.3%増となりました。業績につきましては以上となります。

貸借対照表主要項目

(単位：百万円)

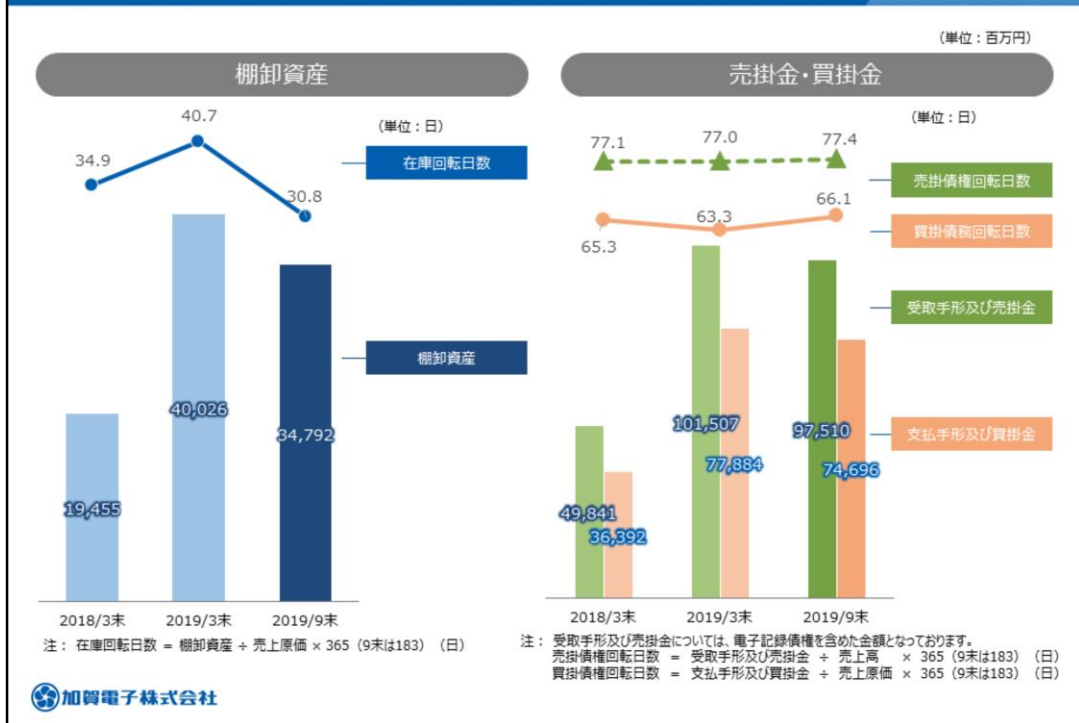


注：『税効果会計に係る会計基準』の一部改正（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年3月期以降の指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

加賀電子株式会社

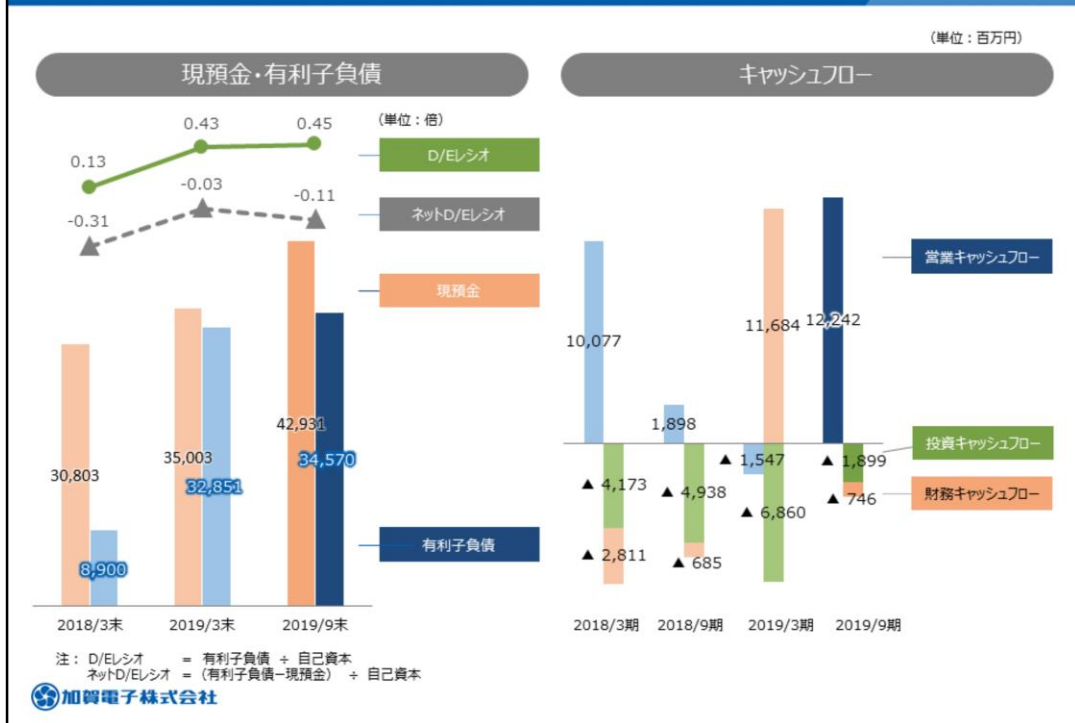
続いて、貸借対照表の主要科目についてご説明申し上げます。まず資産の部ですが、第2四半期末の総資産は2,144億7,500万円となり、3月末に比べますと7億1,400万円の増加となりました。流動資産は1,821億3,300万円となり、2億6300万円の減少。固定資産は323億4,100万円となり、9億7,700万円の増加となっております。固定資産は、IFRS16号の規定により、リース資産のうちオペレーティングリースを帳簿に計上するという会計基準が今期から導入されておりますので、これによる増加が主なものとご理解いただければと思います。続いて負債と純資産ですが、負債合計は1,290億800万円となり、4億9,300万円の減少。純資産には、854億6,600万円となり、12億700万の増加となっております。

貸借対照表主要項目



続きまして、次のページは棚卸資産です。9月末の棚卸資産は347億9,200万円となり、3月末に比べると52億3,400万円減少しております。在庫回転日数は30.8日となり、3月に比べると10日ほどの減少。売掛金の残高は975億1,000万円となり、39億9,700万円の減少。買掛金は746億9,600万円となり、31億8,800万円の減少となっております。それぞれの回転日数については、売掛金は77.4日、買掛金は66.1日となっております。以上から、棚卸資産が減り、売掛債権が買掛債権よりも多く減少しておりますので、現金収入が増えたのご理解いただけたと思います。

現預金・有利子負債/キャッシュフロー

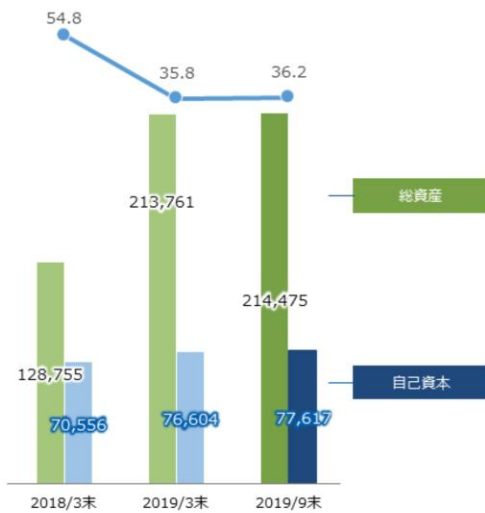


次に現預金と有利子負債、キャッシュフローです。現預金残高は429億3,100万円となり、この3月末と比べると、79億2,800万円増加しております。有利子負債は、345億7,000万円となり、17億1,900万円の増加となっております。D/Eレシオは0.45倍、ネットD/Eレシオはマイナス0.11倍ということで、現預金が借入を上回っています。キャッシュフローにつきましては、営業キャッシュフローが122億4,200万円の獲得でした。こちらは純利益の計上と、在庫削減によるものが主な要因です。それから投資キャッシュフローは、18億9,900万円の使用となり、こちらは有形固定資産の獲得によるものが主な要因です。財務キャッシュフローは7億4600万円の使用となり、こちらは配当金の支払いによるものが主な要因でございます。

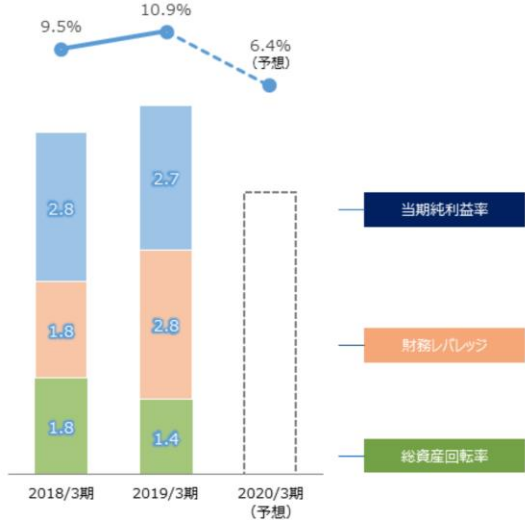
経営指標：安定性・効率性

(単位：百万円)

自己資本比率



ROE (自己資本利益率)



次のページは、安定性、効率性の指標です。総資産が2,144億7,500万円、自己資本が776億1,700万円となり、自己資本比率は36.2%となりました。3月末と比べると、わずかですが改善しております。ROEは、3月末で10.9%でした。期末時点では6.4%を予想しております。当期純利益率は、ほぼ横ばいの2.7%となり、財務レバレッジは2.8倍と、ちょっと広がってますね。総資産回転率1.4倍と、やや低下しております。

2020年3月期 通期業績予想（2019年5月14日公表）

(単位：百万円)

	2019/3期 実績	2020/3期 予想	前年比
売上高	292,779	430,000	46.9%
売上総利益	35,546	46,500	30.8%
同利益率 (%)	12.1%	10.8%	
販売費及び一般管理費	27,976	39,500	41.2%
営業利益	7,570	7,000	▲7.5%
経常利益	7,859	7,000	▲10.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,014	5,000	▲37.6%
EPS（1株当たり当期純利益）	292.07	182.17	
ROE	10.9	6.4	-

 加賀電子株式会社

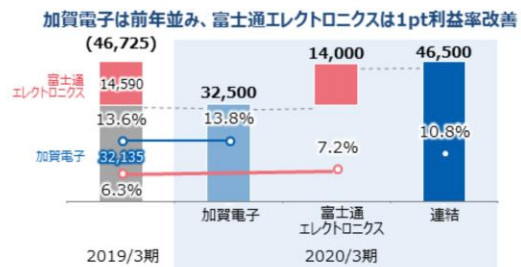
最後に、2020年3月期の業績予想ですが、売上高は4,300億円、営業利益は70億円、経常利益は70億円、親会社株主に帰属する当期純利益は50億円と、期初予想から据え置きとしております。今後の経営環境を慎重に見極めることとし据え置きとさせていただきます。

2020年3月期業績予想 富士通エレクトロニクス グループ会社化の影響

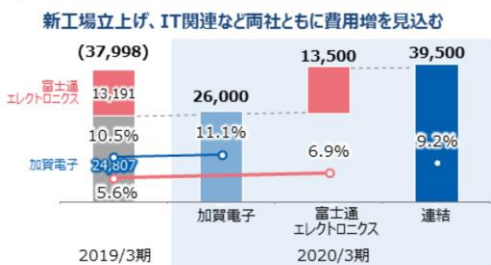
売上高



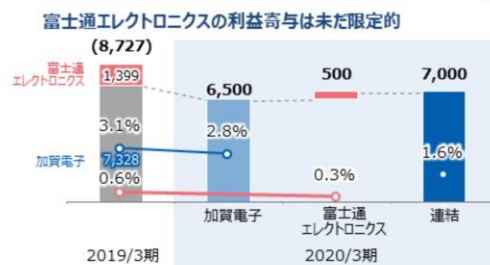
売上総利益 / 売上総利益率



販管費 / 販管費率



営業利益 / 営業利益率

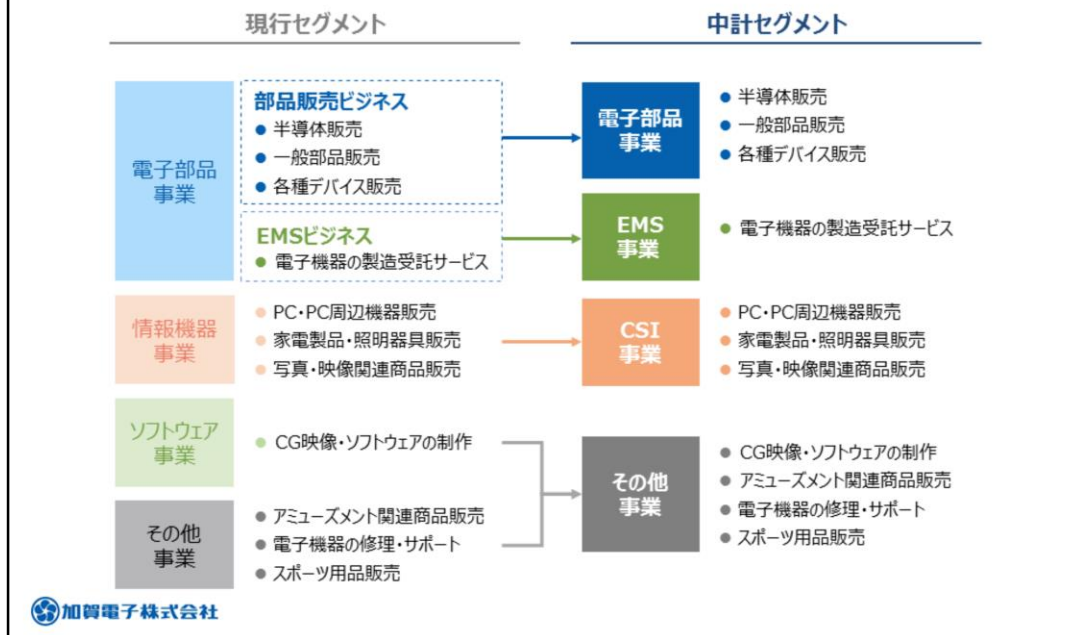


その理由は次のページになります。富士通エレクトロニクス分をどのくらい見込んでいるかになります。売上高4,300億円の見込みのうち、1,950億円が富士通エレクトロニクス分。加賀電子分は、2,350億円を予想しております。売上総利益は、総額465億円のうち、富士通エレクトロニクス分は140億円、加賀電子が325億円となっております。販管費は、395億円のうち、富士通部分が135億円、加賀電子分が260億円となっております。営業利益は、70億円のうち富士通部分が5億円、加賀電子分が65億円という分解になります。

富士通エレクトロニクス分が大きく減少している理由は、前回の決算説明会でもお話をさせていただきましたが、サイプレスというアメリカの半導体メーカーの商権について継続交渉をしておりましたが、最終的に、この10月初をもって代理店権が解消されました。上期はその収益が寄与しましたが、下期以降は全くなくなることとなりますので、下期は富士通エレクトロニクスにつきましては、赤字が、計上される予定となります。

<参考>新中計スタートに伴うセグメント開示に関して

制度開示としては現行セグメントを継続するとともに、新中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う



次のページ以降は、参考資料として添付している資料です。今期より開始している中期経営計画2021の中において新しい事業区別として、電子部品事業、EMS事業、CSI事業、その他事業の4分類に分けさせていただいております。22ページにはその区分を記載しております。

<参考>加賀電子及びグループ各社のセグメント領域

	電子部品事業	EMS事業	CSI事業	その他事業
加賀電子株式会社				
電子事業部	●	●	(●)	●
EMS事業部		●		
通信事業部	●	●	●	(●)
特機事業部	●	●	(●)	●
特販事業部	●	●	(●)	●
営業推進事業部	●			
主な国内グループ会社				
加賀テック株式会社	●	(●)	(●)	(●)
加賀デバイス株式会社	●	●	●	●
加賀ソルネット株式会社			●	
イー・ディー・デバイス株式会社	●			
加賀マイクロソリューション株式会社		●	(●)	●
株式会社デジタル・メディア・ラボ				●
加賀スポーツ株式会社				●
加賀アミューズメント株式会社				●
加賀テクノサービス株式会社			●	
富士通エレクトロニクス株式会社	●			
主な海外グループ会社				
加賀沢山電子（蘇州）有限公司		●		
加賀電子（上海）有限公司	(●)	●		
港加賀電子（深圳）有限公司		●		
KAGA (H.K.) ELECTRONICS LIMITED		●		
KAGA DEVICES (H.K.) LIMITED	●			
KAGA (TAIWAN) ELECTRONICS CO., LTD	●	(●)		
KAGA ELECTRONICS (THAILAND) COMPANY LIMITED	(●)	●		
KAGA COMPONENTS (MALAYSIA) SDN.BHD.		●		
KAGA ELECTRONICS INDONESIA, PT	●	●		
KAGA ELECTRONICS (VIETNAM) CO., LTD.		●		
KAGA (SINGAPORE) ELECTRONICS PTE LTD	●	(●)		(●)
KAGA ELECTRONICS (USA) INC.	●	●		
TAXAN MEXICO S.A. de C.V.		●		
KD TEC s.r.o.	●	●		

 加賀電子株式会社

次のページは、それぞれのグループの中で、どの部門がどの事業を行っているのかを一覧にしております。

<参考>2020年3月期第2四半期 中計セグメント別業績（6ヶ月累計）

(単位：百万円)

		2019/3期 2Q実績	2020/3期 2Q実績	前年比
電子部品	売上高	44,216	156,803	254.6%
	セグメント利益	899	2,127	136.6%
EMS	売上高	43,031	46,945	9.1%
	セグメント利益	1,624	2,100	29.3%
CSI	売上高	21,143	19,968	▲5.6%
	セグメント利益	864	618	▲28.5%
その他	売上高	6,991	6,912	▲1.1%
	セグメント利益	310	316	2.1%
合計	売上高	115,383	230,630	99.9%
	セグメント利益	3,772	5,239	38.9%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。



24、25ページは、それぞれの新セグメント別に、この第2四半期を単純集計した数値になっております。

<参考>2020年3月期第2四半期 中計セグメント別業績（直近3ヶ月）

(単位：百万円)

		2019/3期 2Q実績	2020/3期 2Q実績	前年比
電子部品	売上高	23,208	84,698	265.0%
	セグメント利益	635	1,651	160.0%
EMS	売上高	21,927	22,425	2.3%
	セグメント利益	786	830	5.6%
CSI	売上高	10,725	9,842	▲8.2%
	セグメント利益	547	429	▲21.5%
その他	売上高	4,028	4,099	1.8%
	セグメント利益	279	430	54.2%
合計	売上高	59,889	121,066	102.1%
	セグメント利益	2,282	3,389	48.5%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。



24、25ページは、それぞれの新セグメント別に、この第2四半期を単純集計した数値になっております。

<参考>2020年3月期 中計セグメント別通期業績予想

(単位：百万円)

		2019/3期 実績	2020/3期 予想	前年比
電子部品	売上高	145,042	282,000	94.4%
	セグメント利益	2,278	2,200	▲3.4%
EMS	売上高	89,481	95,000	6.2%
	セグメント利益	2,667	2,800	5.0%
CSI	売上高	44,344	40,000	▲9.8%
	セグメント利益	1,906	1,500	▲21.3%
その他	売上高	13,912	13,000	▲6.6%
	セグメント利益	554	500	▲9.7%
合計	売上高	292,779	430,000	46.9%
	セグメント利益	7,570	7,000	▲7.5%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

為替レート

	2019/3期 2Q実績 (円)	2020/3期 2Q実績 (円)	(参考、半期ベース) 1%変動による影響額(百万円)		2020/3期 前提 (円)
			売上高	経常利益	
米国ドル	110.26	108.63	927	20	110.00
タイバーツ	3.40	3.49	124	7	3.40
人民元	17.09	16.20	103	4	17.00
香港ドル	14.05	13.86	113	2	14.00

それから最後、27ページに、為替レートとして、米ドル、タイバーツ、人民元、香港ドルの4通貨につきまして、1%変動した場合の売上高、経常利益への影響を記載した一覧表をつけております。

加賀電子グループのEMS事業について

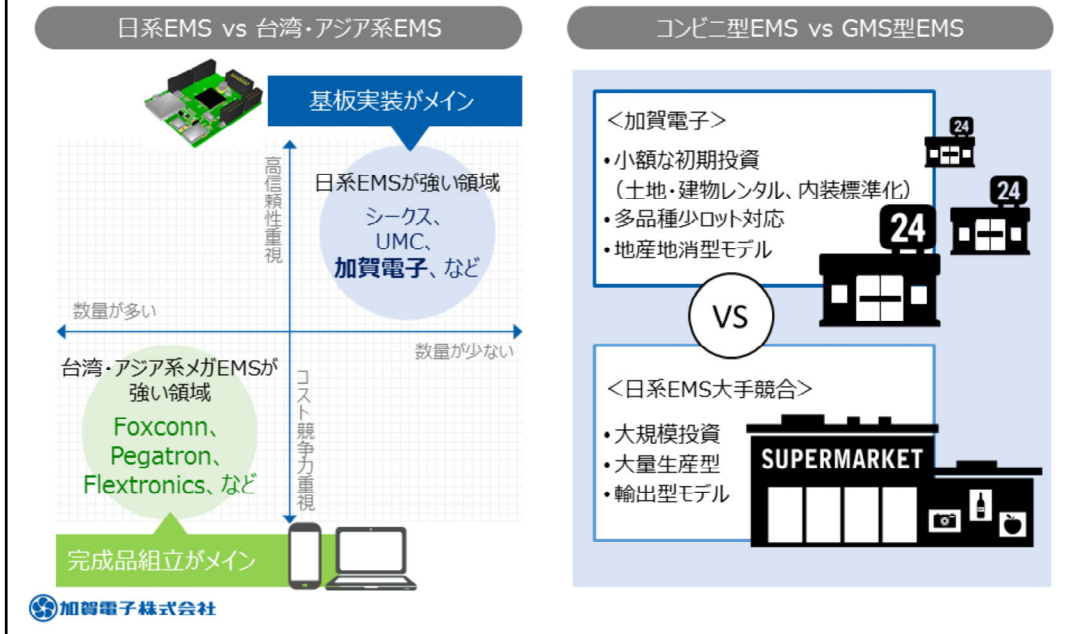
EMS事業の概要と成長戦略

加賀電子株式会社
取締役
EMS事業部長 俊成 伴伯

EMS事業を担当しております。俊成と申します。
今日はEMS事業についてご説明させていただきます。

加賀電子グループEMSの強み-①：コンビニ型EMS

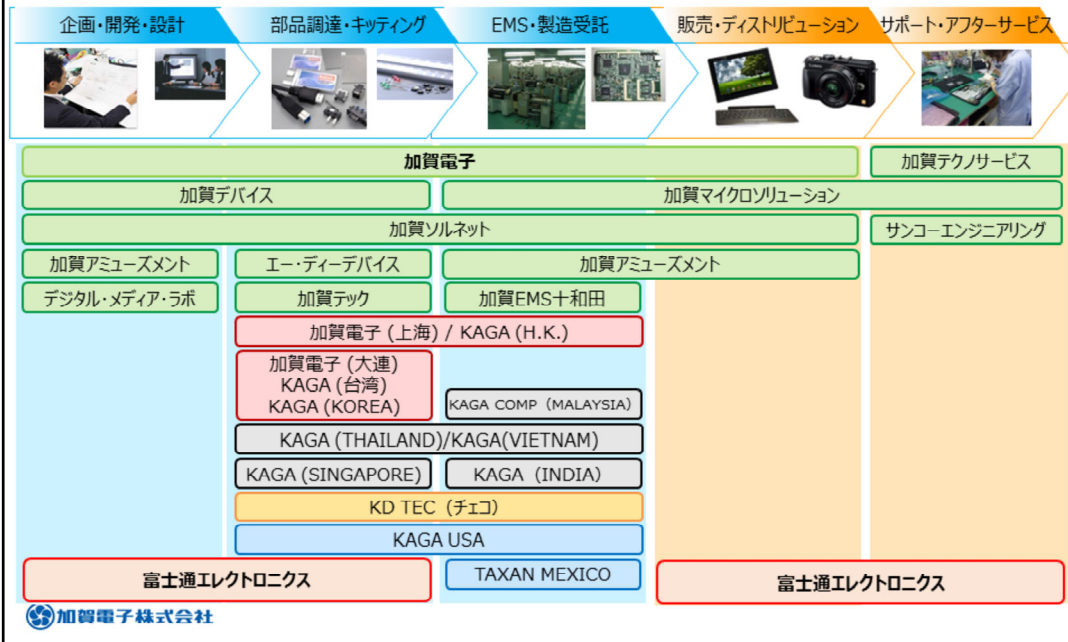
加賀電子はお客様にとって便利で価値ある「コンビニ型EMS」をグローバルに展開



まずEMSビジネスにおける当社の立ち位置ですが、多品種少量の生産を得意としており携帯電話ですとか PC といったものは一切タッチしておりません。高信頼性と多品種少量生産を当社の強みとして事業展開しております。アメリカ系や台湾系のというのはやはり大きな投資で、大きな工場を作って大量に流すということが得意ですが、当社はそういう大規模な投資ではなくて、小さくやって幅広くやるというほうが向いていると思っております。先日もアメリカのお客様から、130モデルの受注をしたわけですが、これは1モデル50枚/月とか多いのでも1000枚/月ぐらいということで非常にモデルが多くて数量が少ないものでした。アメリカにもジェーベルとかセレスティカという会社があるのですが、そういうところに「なぜ頼まないんですか？」と聞いたら、やはり細かすぎてやってくれないということでした。当社ですと、そういう仕事でも固まりにすると10億円以上の年間規模になります。そういうものを当社が対応して、十分そ利益が上がるということなので、やはり、こまめな仕事をして注文を取ってくるというのが向いていると思えます。その中でも当社は初期投資を抑えてやるコンビニ型のEMSを目指しております。日系の他のEMSメーカーさんですとやはり大きな投資、大きな工場を作ってやるケースが多いのですが、当社は、お客様のいるところに地産地消でそばにいて、小さい工場をレンタルで借りて、内装もこの工場もだいたい同じような内装を施して、生産していくということです。お客様のオーダーが増えればまた別の場所を借りて工場の拡張を行うとか、第二工場を作るとか、ヤドカリ式に増やしていくというやり方で拠点を整備しております。

加賀電子グループの強み-②：ワンストップ

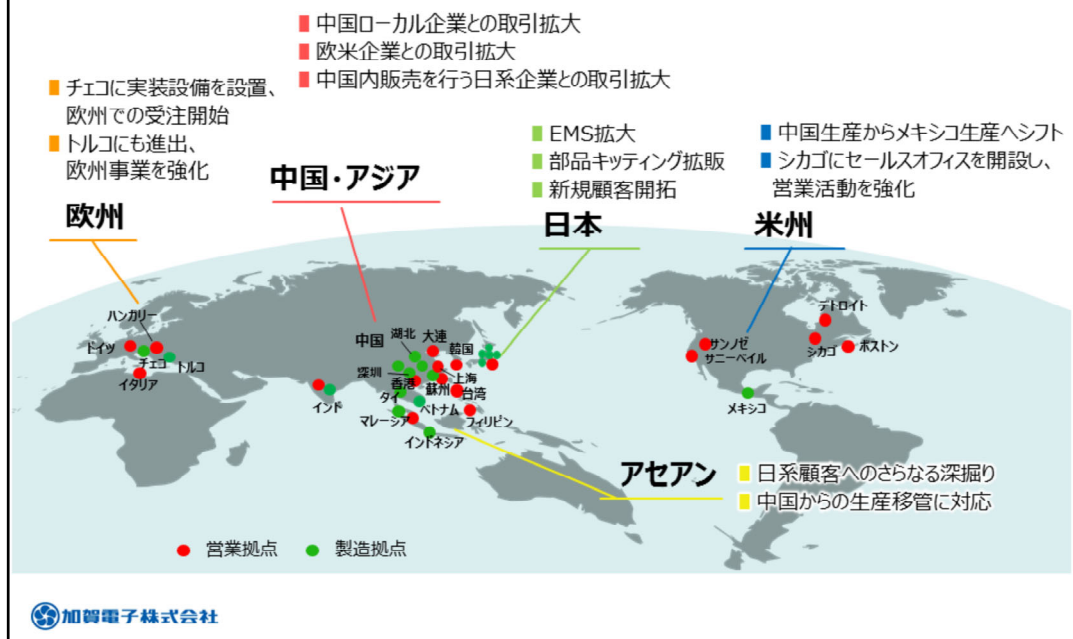
製造受託に留まらず、販売・販売後サポートまでワンストップで対応できるグループ総合力



加賀電子は「お客様の要望には全て答える」というのがポリシーであり、EMSもその中の一部です。開発をしてくれというお客様には開発をできるグループ会社及び加賀電子本体が対応します。部品販売もキittingとか代理店業をできる会社もたくさんあります。EMSも国内・海外に拠点があります。完成品を販売するディストリビューションでは、量販店さん中心に、3万店以上のアカウントを持っていますので、その流通に乗せることができます。その完成品が、今度はアフターサービス、修理もできる会社もありますので、お客様からすれば開発からアフターサービスまでワンストップで受けられる体制をとっております。

加賀電子グループの強み-③：グローバル

10ヶ国/19拠点に展開するEMSグローバル生産体制で、顧客ニーズに迅速且つ柔軟に対応



海外の拠点では、グローバルということで10カ国に19拠点を持っております。ヨーロッパはチェコとトルコ。東欧の方も、今、人件費が上がって人が足りないという状況に入ってきております。それでトルコはまだ人件費も東欧の半分ぐらいですし人も集まりやすいということで、廉価版の製品はトルコで生産し、付加価値のある製品はチェコ、という住み分けが出始めてきております。トルコは危ないというイメージがありますが、それも南の方のシリアとかの国境沿いはちょっと危ないと思うのですが、イスタンブールや地中海に面してるところは問題はないという状況です。アジアでは、蘇州に2ヶ所、湖北、深セン地区に2箇所工場があり、今そちらで日系のお客様の仕事がメインですが、徐々に中国系のお客様からの引き合いの方にシフトしている状況です。今、米中摩擦の影響で中国外で作ってくれというお話が非常に多く、中国生産がアセアンに流れているという状態です。当社の既存のお客様もそうですが、新たなお客様としてやはりベトナムとかマレーシアとか、そういうところで作ってくれというお話が非常に増えております。ですので、インド、マレーシア、インドネシア、ベトナム、タイなどが中心になってきております。米州では、今メキシコへの引き合いが一番多く、「メキシコで生産、そしてアメリカに納入」ということが始まっております。日本側もやはり海外生産から日本帰帰という流れが、お客様の方でありまして、これの受け皿として国内工場の拡張も行いました。

主要生産拠点のご紹介：中国

港加賀電子（深圳）有限公司

設立	1999年
従業員数	950名
生産品目	車載関連製品、産業機器、事務機器、 アミューズメント機器、通信機器



<深圳工場>

加賀沢山電子（蘇州）有限公司

設立	2009年
従業員数	360名
生産品目	車載関連製品、医療機器、産業機器、 住設関連製品、電子楽器、通信機器



<蘇州第1工場（輸出用）>



これが主要な拠点ということで、華南地区では深センに港加賀電子という工場があります。こちらでは車載とか産業機器とか様々な製品を工場で作っております。その横は中国の蘇州。蘇州には輸出用の工場と国内販売用の工場があります。こちらで車載・医療機器など様々な製品をこちらで作っております。

主要生産拠点のご紹介：アセアン

KAGA ELECTRONICS (THAILAND)

設 立 2002年

従業員数 690名

生產品目 車載関連製品、事務機器、空調機器、
産業機器



<タイ第1工場>

KAGA ELECTRONICS (VIETNAM)

設 立 2017年

従業員数 120名

生產品目 車載関連製品、空調機器、事務機器、
医療機器



<ベトナム工場>

 加賀電子株式会社

タイでは車載関係・事務機関係をやっているのですが、中国から仕事はかなりタイにシフトしてきて需要が増えておりますので、今、第二工場を建設中で、今月末には完成予定の日程で動いております。ベトナムも今、引き合いが中国地区から入ってきています。これから徐々に増えていくということで、空調と医療機器を中心に生産しております。

主要生産拠点のご紹介：欧州・米州

KD TEC

設 立 2009年

従業員数 120名

生產品目 空調機器



<チェコ工場>

TAXAN MEXICO

設 立 2017年

従業員数 160名

生產品目 車載関連製品、事務機器、産業機器



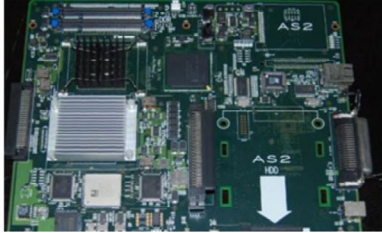
<メキシコ工場>

 加賀電子株式会社

ヨーロッパでは、KD TECと言うんですが、チェコの工場では空調機器関連を中心に作っております。トルコでは、KD TECTURKという名前でやっております。サンルイスポトシという中央高原にありまして、ここも車載・事務機・産業機器のお客様向けに、基盤を作って、それをお客様のメキシコ工場に納入するというのが主な仕事となっております。

主な生産品目：各種基板

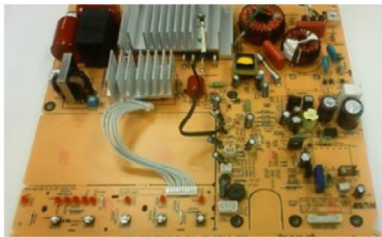
事務機器用基板



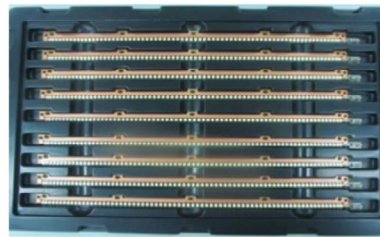
通信機器用Lサイズ基板



電源系基板



LED関連基板

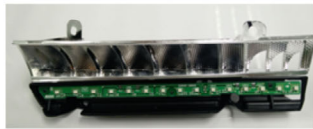


 加賀電子株式会社

生産品目としては、上は複写機等の事務機用の基板、左上ですが、これは部品点数としては4000点から5000点ぐらいの部品がこの1枚の基板に乗ってますので、すごく高密度の実装が要求されます。右上は通信機のルーターとかサーバーとかスイッチングハブなど大型基盤を受けております。左下は電源系の基盤。これはいろいろ製品に入りますので、いろいろな形の電源基板も作っております。LED関係の基盤。これはいろいろな用途がありますので、一例としてここに乘っかっております。

主な生産品目：車載関連ユニット

車載用照明ユニット



ACインバータユニット



 加賀電子株式会社

ユニットとしては、車載では、こういったライト関係、あのフロントランプやリアランプこういったモジュールをお客様に納入しております。その右側が AC インバーターです。これが今非常に伸びておりまして、この間の台風などで、電気が来ないと言った時にハイブリッド車に乗っているのですが、AC 電源を入れるとそのまま電気が家庭内でも使えるというものです。今まではオプション装備で車に搭載していたのですが、今後は標準装備でどんどんついていくということで、今、数がどんどん増えております。

主な生産品目：各種ユニット

空調機器ユニット



FA機器タッチパネルモニター



 加賀電子株式会社

これは空調機です。室外機こういった板金にくるまったユニットですが、年間200万台ぐらい生産しております。こちらは産業機器用のコントロールパネルです。こちらの完成品も今受けております。

主な生産品目：各種完成品

車載関連製品



<カーナビゲーション>

医療関連機器



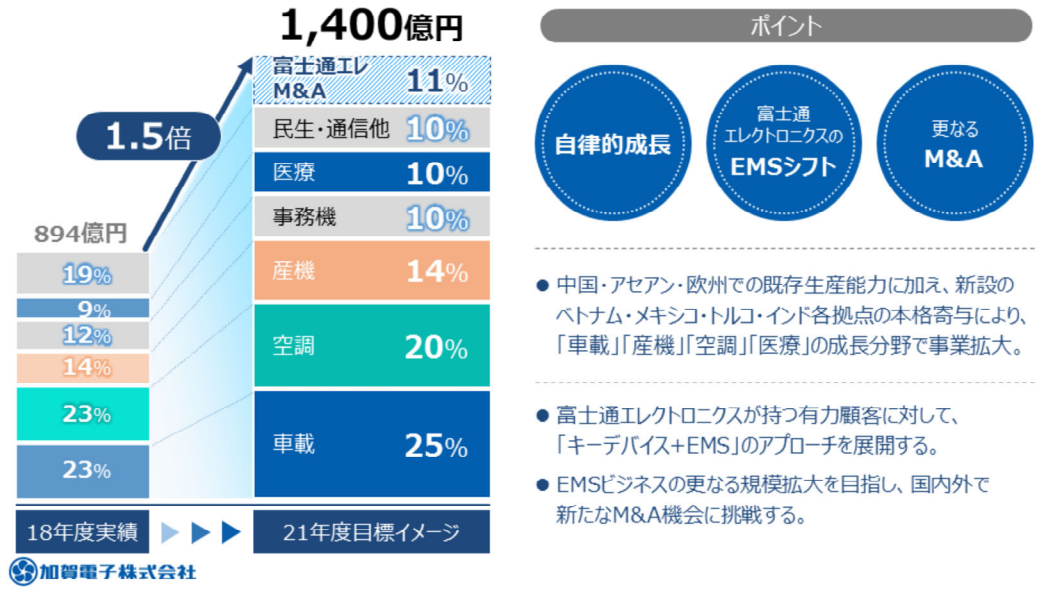
<薬保管キャビネット>

 加賀電子株式会社

車載では、カーナビゲーションの完成品です。国内で生産しております。それと医療機器。これはアメリカのお客様ですが、薬の在庫管理のキャビネットということでアメリカの病院にはほとんど入っています。薬が盗まれないようにとか、違う薬を使わないようにとか、そういうことをこれで管理しております。

EMSビジネスの成長シナリオ

「車載」「産業機械」「空調」「医療・ヘルスケア」を成長ドライバーに、18年度比1.5倍の事業規模へと飛躍的な成長を目指す



今後の成長シナリオですが、今我々が狙っているのが2021年度目標で今の1.5倍の1400億円というEMSのターゲットに向けて今活動しております。当社の特徴は、車載がいいからといって車載だけをやるのではなく、バランスよくやらないといけません。どの業種が良くなったり、どの業種が悪くなったりというのはなかなか読めませんので、バランスよくいろいろな業種のお客様の仕事をやらさせて頂いております。ですので、比率としては当然車載は伸びているのですが、今後はやはり医療機器とかが伸びてくるではないか思っております。拠点としてはほぼ整備ができました。今回、富士通エレクトロニクスと一緒にすることで富士通エレクトロニクスはキーデバイスをお客様の開発部隊に売り込んでいますので、その開発時点からEMSの話を受けてボードもしくは完成品の状態で受注するという活動をどんどん行っております。

EMSビジネス成長のための重要テーマ

富士通エレクトロニクスが持つ欧米有力顧客のEMSシフトに併行して、「ボリューム」「クオリティ」「コスト」を強化し、事業競争力を総合的に高める。



生産能力の増強

- 米中貿易問題長期化に伴う“中国からの生産移管”の動き、為替変動や人件費高騰を回避する製造業の“国内生産回帰”に動きに機動的に対応する。



エンジニアリング力の強化

- 汎用設備に依存せず、自社内エンジニアリング力を活用して、“コンビ二型EMS”に最適コストの生産設備を自社開発することにより、コスト競争力を高める。



ものづくり力の強化

- 十和田パイオニアの買収により、エレクトロニクス専門メーカーとして長年培ってきた同社の「ものづくり」のノウハウ、優秀な生産系人材と生産設備、治具設計、品質保証体系などリソースを共有することで、EMSビジネスの品質レベルの一層の向上、競合他社との競争優位性を強化する。
- 十和田パイオニア、福島新工場を“マザー工場”と位置付け、海外拠点との連携、全体最適化を推し進め、経営体質の強化と事業効率の向上を図る。

成長のための重要なテーマとしては、富士通エレクトロニクスが持つ欧米のお客様に対して、EMSもセットで納入していくことを今活動しております。そして、「生産能力の増強」ということでは、中国以外の拠点を拡張しております。「エンジニアリング強化」では、こちらも後でご説明しますが、汎用設備だけを使うのではなくて我々が自動化設備を独自に開発して自分たちの生産ラインに使う、もしくは将来的には外販を始めることで設備のコストダウンを図っております。そして、「モノづくり強化」ということで、後で説明させてあげますが、国内工場の強化に取り組んでおります。

具体的なアクション

十和田パイオニアの 買収	 生産能力の増強	•“国内生産回帰”に伴う需要増の取り込み
	 ものづくり力の強化	•生産ノウハウ、優秀な生産系人材を共有 •基板実装のマザー工場
	 エンジニアリング力の強化	•生産設備設計、治具製作等のリソースを共有 •自社開発の生産設備のグローバル展開に向けた検証テスト
福島新工場の 建設	 生産能力の増強	•“国内生産回帰”に伴う需要増の取り込み
	 ものづくり力の強化	•完成品組立のマザー工場
タイ第2工場の 建設	 生産能力の増強	•米中貿易問題の影響を回避した“中国からの生産移管”の取り込み
中国合併事業	 エンジニアリング力の強化	•多品種小ロット生産に適した自社開発の生産設備による差別化

まず、「十和田パイオニア」の買収です。これは、パイオニアさんがもたれている国内の製造工場、青森の十和田市にあるのですが、そのパイオニアさんの工場を今年10月1日から加賀電子グループに入ってもらいました。

十和田パイオニア(株)買収の概要

加賀EMS十和田



買収のスキーム

2019年10月1日付でパイオニア(株)より十和田パイオニア(株)の株式を取得しグループ会社化。

買収後の名称

加賀EMS十和田株式会社

所在地

青森県十和田市

事業内容

車載用電子機器、医療機器の
基板実装および完成品組立て

従業員数

165人（正社員）

取得価額

非開示

写真の方はこのように、もう看板も取り替えて、「加賀 EMS十和田」という名前で青森でやっております。青森の七戸十和田という新幹線の駅で、東京からは3時間くらいの距離です。そこから車で20分ぐらいの場所に位置しております。もう雪が降っております。ということで、この工場生産がスタートするのですが、今のところはパイオニアさんのカーナビ等を作っています。カーナビ自体がこれからどんどん縮小していくマーケットですので、我々は今どんどん加賀電子の仕事をここにに入れていっています。国内生産回帰ということで、お引合いをたくさん今いただいております。そういったものを確実に受注してこの工場を拡大していきたいと思っております。

具体的なアクション

十和田バイオニアの 買収	 生産能力の増強	•“国内生産回帰”に伴う需要増の取り込み
	 ものづくり力の強化	•生産ノウハウ、優秀な生産系人材を共有 •基板実装のマザー工場
	 エンジニアリング力の強化	•生産設備設計、治具製作等のリソースを共有 •自社開発の生産設備のグローバル展開に向けた検証テスト
福島新工場の 建設	 生産能力の増強	•“国内生産回帰”に伴う需要増の取り込み
	 ものづくり力の強化	•完成品組立のマザー工場
タイ第2工場の 建設	 生産能力の増強	•米中貿易問題の影響を回避した“中国からの生産移管”の取り込み
中国合併事業	 エンジニアリング力の強化	•多品種小ロット生産に適した自社開発の生産設備による差別化

パイオニアさんは、非常に垂直統合で開発から製造あと販売を全部自社でやられてたわけですが、この製造部門も非常に優秀な方が多く、その方たちを中心に加賀電子の他の拠点にも水平展開して全体のレベルアップをして行こうと考えております。

福島新工場の建設

福島事業所



名称

加賀マイクロソリューション株式会社
福島事業所

所在地

福島県須賀川市

稼働予定

2019年10月

事業内容

通信機器、PCおよびPC周辺機器の
製造、修理、リユース・リサイクル

従業員数

50人（正社員）

投資額

約12億円
(土地取得、建屋・機械設備含む)

続いて「福島新工場」です。写真はこちらですが、10月から稼働しております。これは加賀電子のグループ会社で「加賀マイクロソリューション」と言う会社の新工場です。今まで山形工場をメインで生産していたのですが、山形が手狭になったため、もう一つ工場が必要だということで、福島の震災の後、誘致を県あげてしていただいたので、進出しました。このマイクロソリューションに江口という社長がいるのですが、江口もこの須賀川市の出身ということで、地元を錦を飾ったという状態で、非常にいい工場です。

(映像にて紹介中)

あれが須賀川の44号線です。こちらの方にこの間氾濫した阿武隈川があるんですが、高台なので水没とかの問題はありませんでした。

加賀電子としては、基板実装は先ほどの加賀 EMS 十和田をマザー工場として展開していきます。そして、完成品の組立はこちらのマイクロソリューションの福島事業所をマザー工場として展開していきたいと思っております。

タイ第2工場の建設

アマタナコン第2工場



名称

KAGA ELECTRONICS (THAILAND) CO., LTD.
アマタナコン第2工場

所在地

タイ国チョンブリー県アマタナコン工業団地内

稼働予定

2019年12月

事業内容

複合機、プリンタ、車載関連製品の基板実装

従業員数

200人（最大350人）

投資額

約5億円
(土地、建物はレンタル)

次は「タイ第二工場」です。これもレンタル工場です。当社の第一工場があるアマタナコンと同じ工業団地にあるので車で5分ぐらいの場所で非常に便利です。この内装工事をやっておりまして今月末で終わらせてます。、12月に試作を開始して1月から量産という予定で今動いております。ここでは主に複写機関係と車載関係の基盤を流す予定であります。

生産設備の自社開発①

「HATTEN」局所半田槽



合併会社設立のスキーム

2018年10月、中国の生産設備メーカーJT社※と当社のグループ会社、蘇州沢山加賀貿易とで合併会社を設立

合併会社の名称

蘇州加賀智能設備有限公司

所在地

中国江蘇省蘇州市

事業内容

基板実装に関わる生産設備の開発・製造・外販
(2020年春より量産開始予定)

※正式社名: 深圳市勁拓自动化设备股份有限公司

最後は、「中国合併事業」です。これは先ほどお話ししました自社開発の設備です。中国大手のJTという半田槽を作ってる会社との合併で、昨年10月に設立しました。。こちらで小型の半田槽というものを開発しまして、これを社内の加賀電子の他の拠点でも今使い始めております。外販もスタートしております。ブランドは「HATTEN」という加賀電子で昔から製品で使ってたブランドなのですが、中国で使うことにしました。「発展するように」ということで名付けたHATTENです。HATTENのラインを製品ごとに組む相手を変えて合併事業をやってトータルソリューションを作ろうというのが狙いです。

生産設備の自社開発②

「HATTEN」基盤実装の自動化設備ライン



合併会社設立のスキーム

2019年12月、中国の有力基板実装設備メーカー・FAROAD社※と当社のグループ会社、蘇州沢山加賀貿易とで合併会社を設立

合併会社の名称

蘇州路遠加賀実装技術開発有限公司

所在地

中国江蘇省蘇州市

事業内容

基板実装設備一式の開発・製造・外販
(2019年12月より営業開始)

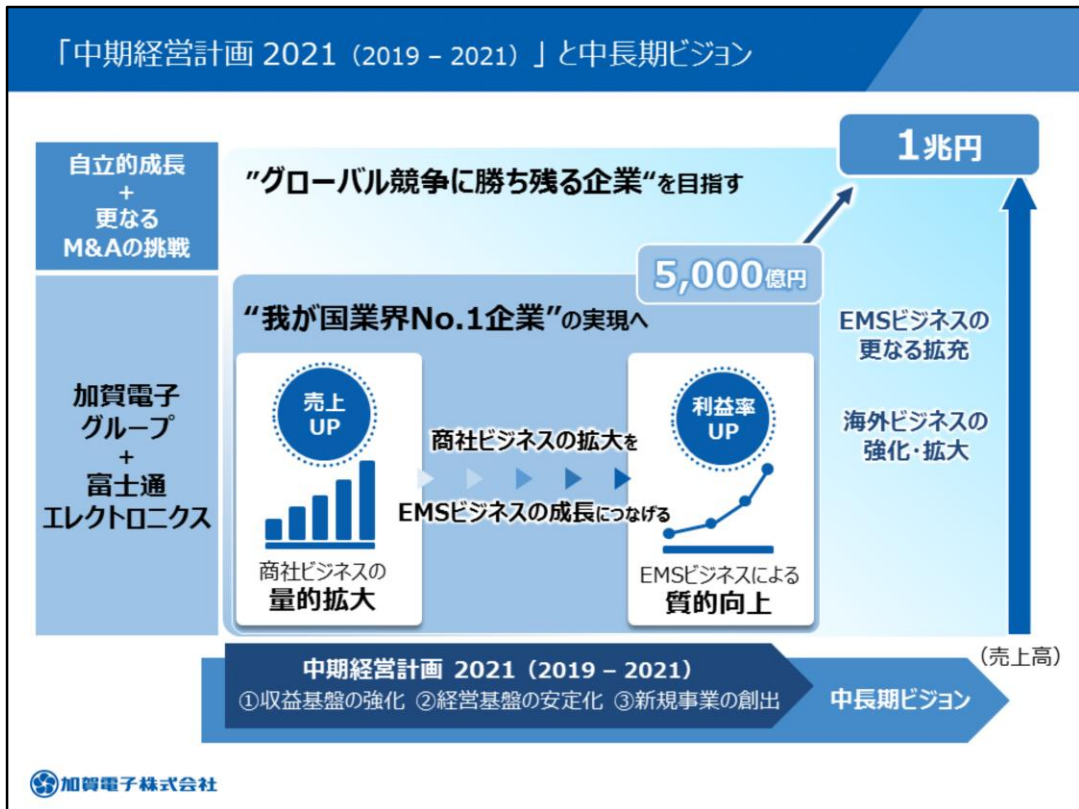
合併会社の目的

- ・「多品種少量生産」に最適な「自動化設備」を自社開発
- ・初期導入費用の大幅抑制だけでなく、高品質・低コストオペレーションの実現

※正式社名：深圳市路遠智能裝備有限公司

 加賀電子株式会社

これが第2弾ということで今年の12月に、合併会社を設立する予定です。、相手はこれも蘇州にある、ファーロードという中国の実装機(SMT)のメーカーです。中国は米中摩擦の影響で設備を全部国産化しようという動きが非常に活発になっておりまして、その一環として我々も合併会社を作って、中国メーカーにも販売しますし、我々の生産ラインにも投入していくということで、かなり競争力が出るのではないかと考えております。



私のパートは、以前から見ていただいていた1枚ということになります。富士通エレクトロニクスをグループ会社化してから、左下の商社ビジネスの量的拡大ということは今、行っております。利益率を重視した事業の取捨選択を、日々やっております。それにより収益基盤を強化して、経営基盤の安定化もさせ、先ほどからご説明しております、EMSビジネスにシフトしていき、中計2021で発表しておりますように、まずは売上高5000億円までっていききたいということです。そして、EMSビジネスの更なる拡充と、海外ビジネスの拡大、M&Aの挑戦をによって、1兆円に向けて頑張っていきたいと思っております。中計2021は、最終年度で、何とか達成したいと思っております。

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報室

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

私からは、以上でございます。